

しらおい
白老川水系河川整備基本方針

平成14年4月

北海道

白老川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	1
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項	5
(参考図)	
白老川水系流域概要図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

白老川は、その源を北海道白老郡白老町のホロホロ山、白老岳を連ねる山塊の一角に発し、毛白老川、横知別川、ウトカンベツ川、ウヨロ川、ブウベツ川等の支川を合流しながら、白老本町を貫流し太平洋に注ぐ流域面積179.4km²、幹川の流路延長24.2kmの二級河川である。

河川名は、一説によると、アイヌ語のシラウ・オ・イに由来し、「虻・多き・処」の意と言われている。

流域内の土地利用状況は、約80%が山林であり、中流部の平地は放牧地、採草地として利用されており、河口周辺の低平地においては市街地が形成されるなど、白老町の社会、経済の基盤をなしている。

また、流域の上流部は支笏洞爺国立公園に指定されている。

(2) 治水の現況

河川改修前の白老川水系は、河川断面が狭小で大きく蛇行していたことから、昭和38年8月に浸水家屋79戸、昭和45年9月にも浸水農地約10haと度重なる出水により、本川中流部の開拓地区及び下流部の美園緑地区とその周辺に多大な被害を受け、これを契機として、昭和46年から平成元年にかけて河口から6.4km区間について築堤の新設、河道の掘削による河川改修が行われた。その間にも、昭和56年8月には台風15号と大雨前線により、本川下流部の緑町地区などを中心として、重軽傷者6名、床上浸水25戸、床下浸水187戸、浸水農地約75haにおよぶ甚大な被害を受けている。

また、昭和62年8月には支川ブウベツ川の中下流部において、浸水家屋23戸、浸水農地約56haの洪水被害を受け、これを契機として、平成元年から築堤、掘削による河川改修を進めてきている。

(3) 河川の利用の現況

白老川の流況は、昭和55年～平成9年の観測によると、大昭和下流観測所地点において最低渇水流量は約1.2m³/sとなっており、水利用としては、工業用水に利用されている。

河川空間の利用については、中下流部においては河川緑地や魚釣り、レクリエーション広場、祭り会場、散策として利用され住民の憩いの場として親しまれているほか、シシャモの内水面漁業権が設定されており、漁業に関しても重要な河川となっている。

(4) 流域の自然環境

白老川流域の気候は、太平洋側気候の胆振日高区分に属し流域内に位置する白老町（下流域）の年平均降水量は約1,600mmと道内平均に比べ多く、さらに上流域の年平均降水量は約2,000mmと北海道でも有数の豪雨地域である。

年平均気温は約7℃で、気候の良い秋が長く続くため、冬の訪れは遅く、積雪量は少ない地域である。

流域の地質は、新第三紀の白老層、別々川層が分布しており、中流の河岸にはおもに礫からなる集塊岩が露出している。流域全般的には比較的若い第四紀層が多く分布している。

流域の自然植生は、白老岳、ホロホロ山の頂上付近にハイマツ群落を持ち、その下部にダケカンバ林が広がっている。中腹よりエゾマツ・ダケカンバ林、エゾイタヤ・シナノキ林が分布し森林が発達しているが常緑針葉樹植林、カラマツ植林の人工林の比率も高い。山麓部、大地部から海岸近くまでのびる丘陵地にかけてはエゾイタヤ・シナノキ群落が広く覆い、緑豊かな環境を生み出しており、エゾユキウサギやキタキツネなどの哺乳類が生息している。

道央自動車道から上流域は、谷底平野の牧草地帯を切り立った山裾に沿って比較的緩やかに流下しており、河床には岩盤が露出した箇所もみられる。河道の既改修部では、ハンノキ、ヤナギ類を主体とする河畔林が見られ、未改修部のカラマツ、ヤチダモ、ハルニレを主体とした河畔林と連続している。最上流部の河畔林はエゾイタヤ・シナノキ群落を主体とする山林と一体化している。魚類では、砂礫底で深い淵にはヤマメなどが生息し、岸辺の水たまりや緩流域にはエゾサンショウウオなどの両生類が見られるなど、良好な動植物の生息生育環境となっている。

河口から道央自動車道までの下流域は、河川改修で整備した河道が大きく蛇行しながらゆったりと流下しており、太平洋に沿って大きく右岸側に曲がった河口付近ではウヨロ川とブウベツ川が合流した後海に注いでいる。また、河口付近の左岸側には白老町の中心となる市街地や工場などが広がっている。

河道にはハンノキ、ヤナギ類を主体とする河畔林が帯状に繁茂し、張り出す樹枝の水面下には落下昆虫を採餌するハナカジカやヤマメなどが生息し、また、サケやシシャモなど回遊魚の遡上が見られる。また、河原では歩きながら採餌するキセキレイやイソシギ、水辺では潜水採餌するカワガラスなどの鳥類が見られる。

水質については、白老橋水質基準点における10ヶ年（S62～H8）のBOD75%値の平均は、0.9mg/ℓと環境基準A類型の基準値を満足している。

(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の経緯、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮するとともに、既存利水施設等の機能の維持に十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、白老川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、堤防の新設や河道の掘削などにより河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図る。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画を上回るような洪水に対しては、重要水防箇所などにおいて、迅速な対応が可能となるよう、水防管理者等の関係機関に対し河川情報等の伝達体制整備やハザードマップ作成の支援等を行い、被害の軽減を図る。

河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全に関しては、白老町の重要な産業である製紙産業の工業用水として利用されていることや、北海道を代表する水産資源であるサケ・シシャモの遡上河川などであることから、現状における流況を踏まえ、水量・水質等の把握を継続していくとともに、利水者や関係機関との情報交換等を行いながら、現状における流況の確保に努めるものとする。

特に河川整備にあたっては、河岸には魚付け林となる河畔林が繁茂し、ハナカジカ・ヤマメなどの生息やサケ・シシャモの遡上が見られるなど、動植物の良好な生息・生育の場となっていることに配慮し、河畔林やシシャモの産卵床となっている砂底などの保全と整備に努める。なお、白老川が白老町民の貴重なオープンスペースとして活用されていることを踏まえ、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

河川の維持管理については、白老川が白老町を流れる貴重な水辺空間であり、河川緑地や魚釣り、レクリエーション広場、祭り会場、散策として多くの人々が訪れる河川であることから、災害の発生の防止とともに、特に河川の適正な利用や河川環境の保全に配慮し、地域住民や関係機関と連携を図りながら実施に努めるものとする。河川管理施設等についてはその機能の維持に努めるとともに、河畔林については、治水上の支障及び環境上の機能や影響を考慮した上で、適正な管理を行うものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

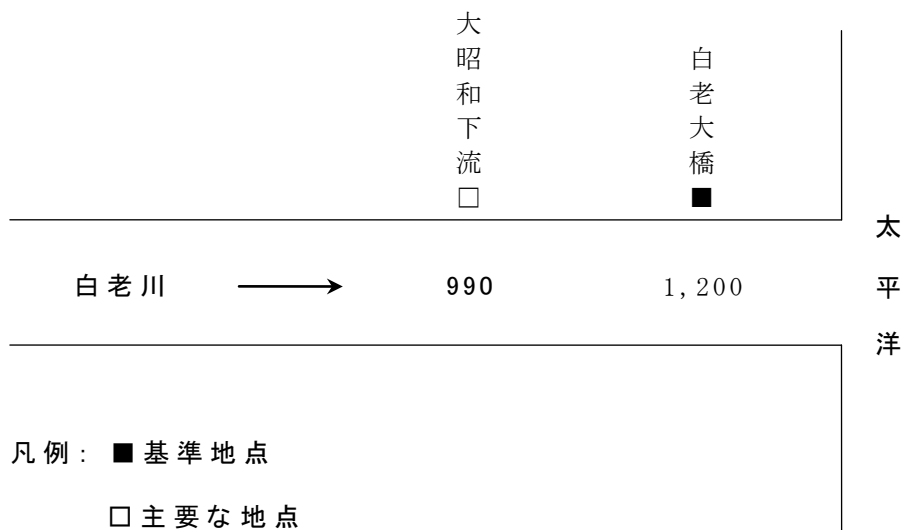
基本高水のピーク流量は、昭和56年8月等の既往洪水を踏まえ、白老大橋基準地点において1,200m³/sとする。

基本高水のピーク流量等一覧表 単位：m³/s

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
白老川	白老大橋	1,200	—	1,200

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

白老川における計画高水流量は、白老大橋地点において1,200m³/sとする。



計画高水流量配分図 (単位：m³/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
白老川	白老大橋	0.30	+3.66	180
白老川	大昭和下流	2.00	+6.67	180

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

白老川の既得水利としては、第1落差工地点に、通年 $1.61\text{m}^3/\text{s}$ の工業用水の許可水利がある。

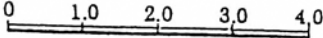
これに対し、大昭和下流観測所地点における過去18年間(昭和55年～平成9年)の平均濁水流量は約 $2.00\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約 $3.13\text{m}^3/\text{s}$ である。

白老川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の調査を引き続き行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して定めるものとする。

白老川水系 流域概要図

凡 例	
■	基準地点
□	主要な地点
—	流域界

S=1:100,000



位置図

